令和６年度北杜市総合教育会議　会議録

開催日時　　令和７年１月２７日（月）　午後３時００分

開催場所　　北杜市明野総合支所　２階大会議室

出席者　　委員
清水德生 教育長、小林秀彦 教育長職務代理者、
祝とよ子 教育委員、今井哲郎 教育委員、鈴木麻美 教育委員、
河手由美香 教育委員
大柴邦彦 市長

教育委員会（教育部）
小澤永和 教育部長、鷹左右紀 教育総務課長、
中澤徹也 中央図書館長、堀内洋介 教育指導監、
田丸敬一 生涯学習課長、平井伸一 学校給食課長、
村松佳幸 学術課長、赤岡仁 甲陵中・高等学校事務長、
清水宏朗 指導主事、浅川大輔 教育総務課総務担当リーダー、

事務局
大芝一 総務部長、日向勝 総務課長、
原章浩 総務課総務担当リーダー、渡辺悠斗 総務課総務担当

議題　　（１）新設市立中学校の目指す姿について
（２）今後の小中学校プールの在り方について
（３）図書館の運営について

公開・非公開の別　　公開

傍聴人の人数　　５人

内容

１．開会（午後３時００分）

２．市長あいさつ

３．教育長あいさつ

４．協議事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第３項の規定に基づき会議招集者が市長であるため、市長が協議事項の議長となる。

（議長）

「（１）新設市立中学校の目指す姿について」を教育部に説明を求める。

（教育部）

資料１「新設市立中学校の目指す姿について」より説明。

（議長）

意見、質問を求める。

（委員）

人間関係の固定化について、少人数の現状では、保育園から同じ集団の中で生活している。良い関係が作れているといいが、子供たちの関係がうまくいかないという問題は実際あるように思う。不登校について関わることがあるが、うまく関われないために学校に行けなくなる子もおり、最終的には転校してしまうこともある。また、転入してくる子にとっては、集団が小さく濃密な関係でありすぎるために、中に入るのが難しく学校に行けなくなることもあると思う。そのため、クラス替え等で多くの子供たちが関われる集団であれば、何かあってもくぐりぬけることができると思う。大きな学校になることは、子供たちのためにはとても良いことだと思う。

（議長）

保育園、小学校と良い繋がりができていれば将来まで良い関係を築けると思う。だが、いじめや仲間外れにされてしまう子が中にはいると思う。全ての学級がそうではないが、転校してきた子が中に入りづらいということもあると思う。そう考えると、２クラス程度でクラス替えがあるなど、多くの子と触れあう機会があるといいのではと思う。

（委員）

中学校を卒業した生徒たちを高校で受け入れる立場からは、高校入学で大きく生活、学習環境が変わり、戸惑う生徒がいるのを見てきた。一番の大きな悩み

は、人間関係が非常に大きいと感じる。子供の発達段階に応じて、小学校から中学校、中学校から高校にと、順々に広く多様で大きな経験や人間関係の交流を深められる段階が重要だと思う。できるだけ多くの出会いがある環境整備をしてあげることが良いと思う。

（議長）
人間関係の部分において、多くの人と出会い話をするなど、コミュニケーションを取ることが大切だと思う。そのような環境を整えられれば良いかなと思う。

（委員）
教育環境や教育指導環境について多方面から検討した利点を掲げていただき、説得力のある内容で、この方向で進んでほしいと思う。特に４ページの「新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）」は夢の膨らむビジョンだと思う。２人の委員から話があったように、人間関係を広げることができると思う。
また、この中で私がそうと思った点は、地域の広がりということが掲げられている点である。北杜市の現状を見ると、どうしても各町の枠に囚われているように見える。合併から２０年が経ち、やはり北杜市としての地域の広がり、みんなが協力して子供たちを育てるという姿が大切だと思う。ぜひ進める方向でいきたいと思う。
危惧されることとしては、今後の説明会の持ち方である。当然賛否両論の立場があるが、多くの方が参加できる説明会の持ち方をしてほしい。例えば、地域の方や中学の卒業生、中学校に子供を預けている保護者、保育園生や小学生の保護者の声も聞かれればなお良いと思う。多くの声が聞かれる会場や時間を設定して、このビジョンを皆さんに伝える場にすればいいと思う。
また、検討したことが決まり、着工する方向でも、工事には５年程度はかかると考えられる。説明会で時間をかけて納得が得られず足踏みしてしまうと、さらに先になる。そうすると状況がまた変わってくることも危惧する。このビジョンを推進できるような方向で進めていただければと思う。

（議長）
多くの人からの意見を聞きながら進めることが大事だと思う。教育委員会と相談しながら、どういう体制で会議を開くのがいいか考えたい。
今の段階で、意見や案があるか。

（教育部）
委員からお話があった説明会だが、多くの人の意見を聞くことが大切だと思

う。時間帯や場所を検討し、できるだけ多くの人に来てもらえる日時場所で設定をしたい。教育委員会もあるので、その際にはご報告、ご相談しながら進めたい。

（議長）
地域でも子供たちを育てるようにしてもらいたい。学校がなくなると、その地域の過疎化が危惧されるが、その点は別の施設を持っていく等を考えるので、子供第一主義で考えていただきたい。また、子供の将来を育てる際は、会社に勤めても人間関係が理由で辞めてしまうという話も聞くので、そういうことも考えながら進めていただきたい。

（委員）
私の息子はとても良い環境で育っており、幸せに育っていると思う。だが、親の目線からは中学生の成長の著しさを感じるとともに、多感な時期であるため、もっと多くの学びがあるべきではないかとも思う。家族のような小・中学校を過ごしているが視野が狭いとも感じる。進学の際、友達と同じ高校を受けようと思うことがある。親としては自分の行きたい高校へ進学をしてほしい。そのため、今まで家族のように学校で育ち幸せだと思うが、できれば中学入学の際、一つ大きな社会を経験すると良いと思う。今は地元の町の友達ばかりと遊びがちだが、いくつかの小学校から来た友達がいれば、北杜市の中でも行動範囲が広がると考える。中学校の３年間で一つ大きな社会に出て学んで欲しい。学習面でも音楽や技術の先生がいつもいることが、基礎知識を学ぶうえで必要なのではないかと考える。

（議長）
他の地域の人の考え方を肌で感じながら知ると、視野が狭くならず広くなると思う。親の立場からも多くの経験を子供がすることはありがたいと思う。将来のことを考えれば、できるだけ多くの人との接触は大切だなと思う。中学校の統合は大変だが、子ども達の将来を考えると力を合わせて頑張りたいと思う。

（委員）
全教科の常勤教員が確保できることを最低条件として確認していただきたい。授業だけでなく、休み時間や放課後も身近にいることが子供の人間形成に大切だと思う。生徒にとって教科の得意・不得意もある中で、芸術関係等、得意の分野を伸ばせる体制となると思う。生涯学習の面からも、義務教育の全面的な発達を担う教科指導は大切になる。１０年後２０年後に花開く場合もあるだろうし、全教科揃う学校体制は作る必要が早急にあると思う。

部活動にしても、市内の中でも部活動が満たされる学校へ行くことや変更を希望する子供がいる。北杜市の人材を市外ではなく、市内で育てることができる体制を整えることが必要と考える。

人間関係の固定化の点では、クラス替えができることは魅力であり、例えば今だと、同じ考えを持つ人が２０人いる中の１人なのが、分母が１００人に増えれば、5人はいるかもしれなくなる。そうすると、新たな人間関係や学校に居場所がつくられ、子供たちが救われると考えられるので、自分の可能性や他人や自分の良さに気づくと思う。

また、市内に複数の学校があると、現在の学校でうまくいかない場合には、まず市内で別の学校に転校ということも可能性としても考えられ、北杜市で育てた教員も、市内の異動で活躍できればますます向上すると思う。２校あるとお互いに良い意味で切磋琢磨すると期待している。統合の際はそれぞれの学校の良いところを持ち寄り、良い部分をさらに構築して学校を作れると良く、地域もそれを期待していると思う。ただ、通学時間が伸び、スクールバスや親の送迎が必要になることもあると思う。その点は負担にならないよう最大限の配慮をしてもらいたい。本市には甲陵中学校があるが、学校の視察があることなどで子どもたちも誇りを持っていると聞く。理想かもしれず経済面のこともあると思うが、子供や保護者、地域の人が統合して良かったと思えて、他の地域から通わせたくなる学校を期待したい。

（議長）

１ページの表のように１４学級あると全教科の先生が揃うので、そうなればありがたいし、転校などを考えると２校案がいいと思っている。

また、通学時間の問題は一番だと思っている。場所やスクールバスを使うのか等を考え、通学時間を短縮できるように、皆様のお声も聴きながらやっていきたい。部活動についても、様々なスポーツができることが子供たち本人にとっても良いことで、その中から自分で選ぶことができればありがたいなと思う。

（委員）

多くの方々の意見を聞いていただく中で、子供たちの声を聞く場を設けていただきたい。子供基本法や子供の権利条約などから、子供が自分の意見を社会に向けて発信する場があり、その中から大人と一緒に未来を作ることを体験することが、将来の市を作る上でも大切な経験だと考える。多様な方々のご意見を聞く中で、子供ファーストいうことであれば、子供たちの意見を聞く仕組みを検討していただけるとありがたいと思う。

これは新設中学校の目指す姿のみならず、作った先の中学校の学習内容、運営

内容が大事になる。そこも含めて、継続的、定期的に子供と対応する場面・子供の声を聞く場面があると、市の教育としては非常に胸を張れるものになると感じている。

（教育部）
子供たちの声を聞く機会を作ることはできるが、生徒や先生は自分の学校に誇りを持っており、今いる自分の学校を良くしようとしている。みなさんが誇りを持って学校にいて、自分の学校が一番だと思っているので、今の学校が良いという意見が多いと思われる。聞き方を間違えてしまうといけない部分はあるので、どのような聞き方をするのが良いか、どのように意見を汲み上げるか、聞き方を検討したい。

（議長）
今の学校に誇りを持っているという意見や、それ以外の意見も出てくるとも思うので、そのような機会を作ることをお願いしたい。

（委員）
地域の人々は、子供を通じて人間関係が築かれているケースが多いように思う。新しく統合された学校ができれば、多くの地域の子供たちが集まり、そこで学んだことを地域に持ち帰ることになり、北杜市の原っぱ教育が子供たちを介して、市全体に広がる可能性が十分にあると思う。原っぱ教育の豊かさが付け加わると感じている。
ただ、地域から学校がなくなることに対し、物理的や精神的に大きな欠落感があるのは否めないと思っている。残される建物等も含めて各地域の活性化に繋げる政策を併せて一緒に考えていただけるとありがたい。特に統合によっていくつかの地域が一緒になって考えるような場が設けられるとありがたいと感じている。

（議長）
大変難しいことだが、学校がなくなった地域には違う何か施設をお持ちする等、地域が元気になるようなことを市政としても考えていけるように努力する。

（委員）
学校作りの物理的な問題として通学の安全性の問題が重要であるが、併せて学校自体の防災上の観点から緊急時の避難や保護者の送迎の点など、学校に至るまでのルート等々も含めて総合的に安全安心な場所への設置を考えいただき

たい。

（議長）
その点は最優先である。子供たちの安全安心を一番に考え、危険地帯等に作ることは絶対ない。
中学校の安全問題や先生の確保やクラブ活動の問題などをまとめ、多くの皆さんから適正だと想定されている２校案を中心に考えていきたいと思うので、ぜひ皆さんよろしくお願いしたい。

（議長）
「（２）今後の小中学校プールの在り方について」を教育部に説明を求める。

（教育部）
資料２―１「今後の、小中学校プールの在り方について」
資料２－２「参考資料」より説明。

（議長）
意見、質問を求める。

（委員）
現在の老朽化の状況には驚いた。一番長いところでは５９年、私の子供の頃から変わってない。
プールの利用時期は大きく変わっていると聞いている。私は小学校の教員だったが、かつては１学期から夏休みの間、２学期のはじめまでの長い期間プールを利用していた。だが、最近の様子を聞くと、１学期だけで、夏休みは猛暑のため開設せず、２学期は運動会の準備があり利用していないと聞いている。従ってプールの開設は１学期の限られた期間であるため、新たにプールを作り、維持管理をするには大きな労力と経費がかかると感じている。
また、水泳の授業の実施には、水温や気温、プールの残留塩素の計測、消毒液の補充や落ち葉や虫の収集、濾過器の点検など、安全に使うために日々労力を費やしていると思うので、業者等に管理してもらえれば非常に良いと思う。雨の心配が不要となる点も効率的だと思う。現状であれば、須玉の健康ランドや泉プール等を活用することが望ましいと感じる。

（委員）
私も教員をしていたのでプール管理の大変さは理解している。子供たちの事

故がないようにと緊張感の中で指導をしていた。泉小学校に勤務した際に、泉プールに授業で行ったが、屋根がついておりプールもとても清潔で、係の方がいるので教員は水泳指導に専念できた。また、終わればすぐに学校に戻り次の授業に入れたので実現できればいいと思う。ただ、泉プールと須玉の健康ランドの２ヶ所では、遠くから通う生徒や子供たちのことを考えなければならないと思うが、方向性とすれば市営プールや委託が理想的と思う。

（委員）
北杜市は水の町を謳っていることもあり、水資源の美しさ、豊かさを伴う文化を多角的に勉強する機会はあるが、子供たちの水の事故が多いので水の危険さも知っておく必要があると思う。多くの美しい川があり、川遊びの機会も多いので、川、水遊びの危険さや身を守るための授業や指導が必要だと強く思う。
現状置かれている教員の状況等を考えると、専門のインストラクターの指導があると良く、先生方が見守りをすることでより安全な指導ができると感じる。
学校からプールへの移動の際には、先生方の負担や子供たちの費用負担がないような支援があるとありがたい。また、夏休みに学校のプールが利用できなくなった際、家族利用で市営プールを利用する費用負担については懸念される。

（議長）
教員の移動の負担はないようにだが、個人利用での移動の負担については、どのくらいの頻度でいつ行くのか等がわからないのでという点がある。

（委員）
水泳の授業は回数としても１学期と２学期の数回で、コロナ禍後の夏休みはほとんどやっていない現状である。熱中症の問題や天候の影響で授業の時間も減ってしまう。プール掃除の経験等は教育の中で大切だと思うが、年に数回しかない授業であり、将来のためには泳ぐことや水の中に入る体験はあってほしいと親としても思うので、民間に委託して専門の指導をしていただけるというのはありがたい。移動の負担が若干心配ではあるが、先生方と子供たちが無理なく通えると良い。

（委員）
学校現場でいくと、水泳実技の時間は１クラス週２から３時間程度。３学年だと２日から３日で授業できるので、水質管理や使用頻度、塩素の費用、熱中症や紫外線等を考えると、民間のプールを利用することが自然であり相対的に考えるとメリットがあると思う。ただ、学校では夏休みにプールの開放があり、ほぼ

毎日水に親しむ機会があったので、その機会が減少してしまうことが課題だと思う。また、民間の方、地域の方へ開放する機会があると、水を学ぶ機会の減少も少し解消できると思う。

指導要領が変化している点から、着衣永等で自分の身を守る授業がなどを最低限カバーし、もちろん費用を軽減しながら、効果が生まれる方策を考える必要がある。

（議長）

安全安心を保つために先生方は大変ご苦労なさっている。それが施設のプールであれば、ある程度の対策ができ、計画通り授業が進められ、生徒に対しての負担が減ると思う。移動についても、バス等で時間管理や安全安心な移動を確保したいと思う。夏休みの移動についてはご意見があるので考える。民間の方への開放についてもご意見があったが、そこまでは難しいのが事実である。

子供や先生の負担や国の指導を考えながら、プールは市民プールの２ヶ所や、インストラクターがいる等、多くの目で子どもたちを見ながら水泳を教えるやり方で進めていきたいと考える。

（議長）

「（３）図書館の運営について」を教育部に説明を求める。

（教育部）

資料３「図書館の運営について」より説明。

（議長）

意見、質問を求める。

（委員）

まず、司書さんは様々な市民の声を聞くことを通してその声を市政に反映させる大きな役割を担っていると思う。専門性を生かし地域の文化や歴史の保存等に関わる業務をし、さらには読書活動のリーダー的な存在でもあってほしいと思う。その専門性を磨くためには、研修が必要である。多岐にわたる業務から、今の８館運営をそのままを維持することは大変厳しく、運営の方法に工夫をしないと、北杜市の文化を守り文化レベルを維持、発展させることが非常に難しくなると感じている。図書館が空間として、多様な人々との交流の場であることが大変重要だと考え、図書館を核とした地域の活動が行われ、世代を超えて交流が生まれる施設であることが重要である。

本に関して言えば、デジタルでできることが増えるのでその可能性について検討していただき、様々なものの効率も考えることが大事だと思う。しかしその一方で、図書館にはやはり出版文化や紙の文化を守るという重要な役目もあると思っている。その紙の文書をどこに保存していくのか、年数を重ねることで今後さらに資料が増えていった場合に、その保管場所はどこになるのかということが危惧される。今のままの運営ではなく、８館のそれぞれに役割や個性をつけた運営をすることが必要だと思う。

もう一点、県では、出版社や書店、図書館、学校関係、行政、一般市民等含めた山梨読書活動促進事業という事業が行われている。読書活動の流れを考え、今後の図書館は多くの方々が管理、運営をする時代になると考えられる。柔軟な運用の仕方が必要で、特に市民が参加し、様々な場所で本を手に取れる環境がある、協力して作るというとも、これからの限られた資源、人口減少の中で考えなければならない図書館のあり方だと思う。近隣では西東京に「まちライブラリー」という取り組みがあり、市民が本を持ち寄ることで病院や美容室、バスの待合所でも本を手に取れる環境をみんなで作っている。様々な場所が人々との交流になり、知の拠点や知を分かち合う場にもなり、それに対して図書館がどのような援助ができるのかという考え方があっても良いと思う。これからの図書館運営は、様々な角度から柔軟な運営も見つめて、８館についても様々な個性を生かした運営をしていただけると将来に向けてありがたいと感じている。

（委員）

図書館で本の検索をする際、「該当する本がありません」と表示されることがあり、蔵書が増えるといいと感じている。ただ、司書の方にお聞きすると、県内にはその本があり、山梨県全域で貸し借りができるシステムあるということを教えてもらった。多くの市民の方に検索をしてその図書館にない場合でも、県内での貸し借りができるシステムがあるということが周知されると、図書館の機能が向上すると感じている。

（委員）

著作権的に難しいかもしれないが、図書館に行けない人が、書籍の中身をインターネットで少しでも知ることができるシステムがあるといいと思っている。楽譜では、サンプルの楽譜から断片的に中身を見ることができ、それを参考にして注文ができるので、図書でもできればありがたい。

市内の図書館には借りたい本があるが、最寄りの町の図書館にはない場合と借りた本の返却場所のシステムについて教えていただきたい。

もう一点、図書館が公共施設の近くにあると買い物や病院のついでに寄ると

いうことが考えられその利用が増えると思う。

（教育部）
まず、書籍の概要については調べられるが、数ページをネットで見られるようにすることは、著作権の関係で今の段階では厳しいと思っている。ただ、本の概要や興味を引かせる見出しについてのご意見はいただいている。現在は紙で発行している「子供にすすめたい本」や３月に予定している図書館での情報誌に本の紹介を掲載するが、これらをネットで発信し多くの人に見てもらえるように考えているので少しずつ取り組みたい。
次に、本の貸し出し関係についてだが、現在は物流に力を入れている。おっしゃられたように、一つの図書館だけでは全ての本がないが、市内の他の図書館には蔵書されていることはある。そこで、市で回るメール便を毎日実施し、休日の後は北杜市の図書館で１日２回実施している。最短で朝注文した本が夕方に届くこともあり、例えば明野の本を白州で受け取ることは可能である。返却についてはどこの図書館でもできる。
最後に複合施設の関係だが、現状は複合施設の場所と単独の施設があるが、やはり複合施設にはメリットがあると思っている。現状では、良いところは伸ばしデメリットは工夫し、リスクを減らすことを考えている。今後は施設の老朽化や公共施設の面積縮減などを行う中で、また様々な考え方が出てくると思うので、メリットが活かせるようにしたい。

（議長）
司書の人たちの役割はとても重要だと思っている。司書の方にも教育ができる環境が整えられるように努力をしたいし、ご意見等を聞ける体制を整えていきたい。
先ほど言われたように、どこの図書館でも借りることができ返却もできるような、８館で一つの図書館というような形は良いのではと思う。図書館のネットワークを繋ぐには多くの費用が掛かる。ただその代わり、８館だけじゃなく甲府の図書館の本も借りられるように、北杜市にない本も多少の時間はかかるが、借りることができる形は取りたい。柔軟な運営にさらに努め、お客さんが来ないことやインターネットの普及もあるが、８館を何とか存続するように努力をしたいので、皆さんからのご意見等もいただきたい。

（議長）
全体としての意見、質問はあるか。

（教育長）
　中学校再編について、２校の中学校は未来に向けて夢のある中学校になるであろうという構想の説明があったが、今の市内にある甲陵中学校を含めて 9 校の中学校は夢がないのかというと、そんなことは決してない。教育部が先ほど述べたように、それぞれの中学校の生徒や教職員は、誇りを持って教育をしている。今の実態では、技術科家庭科の教員を配置している学校はゼロである。だが、非常勤の免許を持った教員が授業時間に学校に赴いて授業をしている。市内には複数教科の免許を持った教員がいる。例えば家庭科と数学、技術科と数学、体育と家庭科である。ある学校では体育で配置されている教員が、別の学校では家庭科を持つということをしている。現在の市内の中学校が、教科的、指導的に劣ることは決してないので不安を感じないでいただきたい。
　２校の統廃合、再編成によって、学びと指導の環境がより豊かになると理解してほしい。

（議長）
以上で協議事項を終了とする。

（事務局）
以上で北杜市総合教育会議を終了する。

５.閉会
　（午後４時４０分）